

【修了生からひとこと】

中森 大和 君

タイ、チェンマイ大学

研修期間:2011年8月20日～9月18日



私は8月20日～9月18日の間、タイ北部にあるチェンマイという大きな県のチェンマイ大学の研究室でプログラムを行いました。

まず、プログラムに参加した理由を説明します。大学院に進んで間もない頃、日々の生活に満足していませんでした。就職した友達との差を感じる中で、焦りがありました。自分から積極的に様々な事に取り組んでいたつもりですが、何かが欠けているような気がしていました。また、留学の希望があり、国際インターンシップの説明会に参加しました。そこで説明をしていた学生が、満たされた顔で発表していたのを聞き、これしかないと感じ、すぐに翌日申し込みに行きました。こういった経緯から明確な目的はありませんでしたが、少なくとも就活を有利にするためだけの狭い目的ではなく、今後の自分に影響を与えるような経験を得ようと思いました。

滞在中、自分の研究、三重大の紹介、プログラムの総括について計5回英語で発表する機会がありました。ここでは、異なる研究領域の人に理解してもらえる単語力、標準的な言い回しを身に付ける必要を感じました。このプログラムを通して、英語を話すことができればより多くの人と関わることができるという実感を得たことは非常に大きい経験です。

タイ語を話すことができれば、現地の方と円滑なコミュニケーションをとれると思い、かつタイが好きになったので、タイ語の勉強を始めました。200語弱の単語を覚え、基本的なやり取りはできるようになりました。マーケットなどに行き、タイ語で話しかけるとお店の人も嬉しそうに対応してくれました。タイ語を学んで、よりタイに馴染めたと実感できました。

当初の目的が果たされたのは言うまでもないですが、私が最も強調したいことはつながりの大切さです。もし、タイの人々が親切にしてくれなければ、1人で何もできず、1週間でホームシックになっていたはずです。私は恩返ししたいと考えました。そして、外国の学生が来た時はタイの学生が私にしてくれたようにし、その滞在を有意義にするために、日本を好きになってもらうために、全力で協力するという1つの答えを得ました。幸運なことに、私の研究室にタイの学生が私の帰国とほぼ同時に来ました。そして、私はチューターを申し出ました。このようにつながりが連鎖し、いつまでも続けば良いなと思います。私は知り合った学生と今も Facebook で連絡を取り合っています。